

充実を追加するとともに産業廃棄物処理施設の整備を推進する。

なお、計画推進に向けた

他の事業縮小と経営基盤の強化を求める。また、市町村には災害時に発生する廃棄物の適正処理の確保を、

カレン月夜を現在予定しているが、正式な日程は未定。

(渡邊)

江藤産業が寄付

佐伯市 空き家バンクを応援

大分市の江藤産業(株)は、移住者の居住環境整備に力を入れていく佐伯市に、事業応援に向け100万円を寄付した。同市では、本年度から市内外の企業を対象に地方創生応援税制(企業

版ふるさと納税)を募っている。寄付は今回で4件目。

15日、市役所で寄付金の受納、感謝状贈呈式があり、染矢安博社長が「ここは、弊社(親会社の江藤酸素)の創業地になる。市の活性化の一助にしてほしい」と述べ、目録を田中利明市長に手渡した。寄付を受けた市長は、染矢社長に

感謝状を贈り「御社では、旧灘小校舎で水耕栽培に取り組んでいただくなど、雇用面でお世話になっていいる。今回の寄付は大変ありがたい。有効に使っていきたい」などとお礼を述べた。

同社は、液化石油ガスの卸・小売販売とガス関連機器などの販売をするかたわら、入札参加資格の建築特A級に格付けされ、民間需要を中心に建築物の施工をしている。今年、佐伯市で電気特A級に格付けされて

いる匹田電気工事(株)が、傘下企業となったのを機に、市に企業版ふるさと納税を活用した寄付を申し出た。

市では、空き家情報の調査などの業務を、佐伯宅地建物流通センターに委託しており、寄付金は事業費の一部に充てる予定。(加藤)



感謝状を手にする染矢社長(右)

大の課題となる中、感染症発生当初より長崎大学熱帯医学研究所と連携し、新型コロナウイルスの迅速診断キットの開発を進めてきた。